

令和3年度学校評価について

令和3年10月4日

<p>本年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 「笑顔」のある安心・安全な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5 センターの機能の充実 6 仕事の効率化、勤務時間の適正化を図る 			
項目	重点目標	具体的方策	中間評価
小学部	<p>学ぶ楽しさや他者と関わることの楽しさを感じながら、主体的に活動に取り組む児童を育てます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童が安心して活動に取り組めるよう、保護者や関係機関と連携して支援します。 2 学習のねらいに応じて、学年や学ぶ場の異なる友達と、ともに学べる場を設けます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 石ヶ瀬小学校との交流を、同時双方向型通信により行いました。初めて出会う友達と、クイズなどの活動を楽しむことができました。 2 総合的な学習の時間には、校内、BS 学級児童が共通の学習ソフトを使い、画面上で質問し合ったり、自己紹介の発表会を行ったりして、相互理解を深めました。 3 新型コロナウイルスの影響により小学部全体で集まるのが難しい状況ですが、学習場所を分散し同時双方向型の授業を行うことで、児童が集団活動の楽しさを感じられるよう努めています。
中学部	<p>基礎的・基本的な学力の習得を確実にを行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気づき、個性の伸長を図り、他者とよりよい人間関係を築く力を養います。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。 2 ICT機器を活用し、校内教育、BS 学級、施設内教育学級で同時双方向型通信を使った授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 3 集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験を、多くの生徒ができるよう支援します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の入院予定や学習状況を把握し、個別学習と集団学習を実態に合わせて組み合わせ、生徒が学習しやすい環境となるよう工夫しています。 2 部集会や道徳の授業などで、ICT機器を活用した同時双方向型通信を使い、集団で学び合う環境と対話的な活動の充実に努めています。 3 病気療養等で登校できない生徒の自宅と学校とを同時双方向型通信でつなぐオンライン学習について、生徒の実態に合わせて実施しています。今後評価方法など整理し、効果的な学習につながるよう継続します。
高等部	<ol style="list-style-type: none"> 1 各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。 2 自己実現を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人の実態を的確に把握し、高等部職員全体で取り組むべき課題という共通認識をもち、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、研修に努めます。 2 挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなどを、学校生活の中で、人との関わり方を学べるように支援・指導します。 3 集団での活動場面において、生徒の実態に応じた役割分担を明確にし、他の生徒との協働により、達成感や成就感を味わえるように指導します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員全員が生徒個々の実態を把握し、幅広い視野、長期的な展望をもって適切な指導ができるように情報の共有に努めています。 2 学習指導要領の改訂に向けて、各教科で改訂の趣旨を整理し、令和4年度からの教育課程の編成に向けた準備をしています。 3 学校生活全般で、職員が積極的に生徒に言葉掛けをし、コミュニケーションの充実に努め、生徒が人との関わりを学べるように支援しています。 4 職員全員で生徒自身が自分と向き合い、適切な目標が設定できるように指導や助言をしています。
施設内教育	<p>名大藤田中京</p> <p>児童生徒が安心して学べるように、保護者及び医療機関等との連携を保ち、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者、病院、前籍校等と協力し合って感染症対策を含めた学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。 2 児童生徒の進路の参考とするため、病棟に入院している高校生の学習状況について情報を収集し、進路指導に活用していきます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 病院と連携して、感染症対策の基本を徹底しています。分散登校などを実施せずに授業ができています。 2 入院している高校生が、どのような状況にあるか調べています。学校によって対応に違いがあることが分かってきています。
訪問教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒と心理的な安全性を構築し、一人一人の実態に応じた授業を実施します。 2 病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の興味・関心や学習の状況、病状を的確に把握して授業を実施します。 2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、児童生徒にあった目標・内容・方法を検討し支援をします。 3 電話や病棟との連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行い、児童生徒にとって安心して活動できる環境作りに努めます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の強みに着目して、児童生徒との間に心理的な安全性を作り上げ、主体的な意欲を引き出すことができるような支援に努めています。引き続き、児童生徒に応じた支援を検討していきます。 2 担当者間で、児童生徒の治療や学習の状況についての共通理解を図りながら、支援を行っています。 3 病棟関係者と定期的に情報交換を続けていますが、情報共有が十分でないところもあるので、コミュニケーションを積極的に取るように努めていきます。
総務部	<p>開校50年を記念してマスコットキャラクターを作成し、学校を盛り上げます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 広く児童生徒がマスコットキャラクター作りに参加できるような計画を立てて、進めていきます。 2 マスコットキャラクターに親しみがもてるよう、キャラクターを取り入れた記念グッズを作成します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 本校や施設、訪問教育と広く連携をとってマスコットキャラクターの募集を行い、全部で34作品を集められました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、設置された投票箱に学級単位ごとに選考委員で選定した候補作に投票する形をとり、児童生徒は、どれに投票するか、真剣に考えられました。 2 児童生徒の投票で決めたキャラクターを補正し、記念グッズにする予定です。文化祭当日にお披露目をするともに、記念グッズが配布できるように進めていく予定です。
教務部	<p>新学習指導要領に沿った、主体的・対話的で深い学びを目指し、授業の充実に努めます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 自ら学習に取り組む態度や自分の考えを分かりやすく伝える力を養うため、タブレット端末を積極的に活用します。 2 新学習指導要領における3つの観点の指導方法や評価の仕方について工夫していきます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 他の校務分掌と協力して、オンライン授業の充実、協働学習用アプリのための研修を行い、タブレット端末の活用を幅広く推進しています。 2 新学習指導要領の「指導と評価の一体化」における評価方法について、部別研修や教科会等を活用し、授業改善を図っています。

自立活動	児童生徒が自立を目指す上で必要な力は何かを教師とともに考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。	1 個別の指導計画を基に、個々の目標や活動内容が児童生徒の実態に適しているかを検討し、自己理解を深めたり、自己管理の力がついたりするような活動内容の工夫を行います。	1 ワークシートを活用し、児童生徒が自ら目標を考え、活動内容を決めて実施しています。教師は個別の指導計画を基に指導・評価を繰り返しました。前期の活動内容や成果を振り返り、後期に向けて目標や活動内容の見直しを行う予定です。
生徒指導部	児童生徒一人一人を大切にし、安心・安全に学校生活を送ることができるような学校づくりに努めます。	1 外部講師による情報モラル教室を実施し、SNSの利便性と危険性に対する知識を高めていきます。 2 児童生徒会活動やあいさつ週間、部活動等、児童生徒が主体的に取り組むことができる活動を工夫し、実践していきます。 3 毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年2回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。	1 情報モラル教室の実施に向けて、外部講師の選定、部の実態に合わせた内容の検討を進めています。 2 児童生徒会役員が中心となり、全校集会でのレクリエーションを企画・運営しました。役員は、児童生徒みんなで楽しめる内容や工夫等、活発に意見交換をしながらレクリエーションの準備をし、集会当日は、円滑に進行することができました。また、集会に参加した児童生徒からは、「楽しかった」等の反響が多数あり、役員は達成感を味わうことができました。 3 各部会で児童生徒の情報交換を行い、「心のアンケート」の結果を職員間で情報共有することで、いじめの早期発見に努めています。
保健体育部	教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。	1 感染症対策をしっかりと行う中で、家庭や病棟と連携を取りながら、日常の健康と安全に対する意識を高めます。健康的な生活習慣や食習慣の重要性を周知していきます。 2 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 3 事故防止に努めるとともに、児童生徒個々に応じた緊急時の対応等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。	1 今年度は、同時双方型通信を活用して体育館と視聴覚室、職員室をつなぎ「3密」を避けつつも消防士による心肺蘇生法、AEDの扱い、緊急時対応のシミュレーション等を行うことで、最新のコロナ感染予防を考慮した心肺蘇生法を学ぶことができた。「3密」を避けつつも消防士から直接受けられる講義の有意性を感じた。 2 医療的ケア、食物アレルギーについては、各部会や委員会等で、安全を最優先した取組となるよう検討し、その情報を全校で教職員に周知した。 3 感染症対策として、登下校時の検温の実施、手洗いの励行及びマスクの着用の呼びかけ、各教室への消毒液の配付及び毎日の消毒拭き取り作業の計画及び実施、密にならないような給食時の座席配置、体調不良者が休養できる部屋の確保等、マニュアルを作成し、管理職や他の分掌と連携を図りながら対応した。
進路指導部	児童生徒の実態と児童生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	1 キャリア教育ノートの活用やキャリアパスポートの系統的な運用等、キャリア教育の充実に努めます。 2 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施し、情報の提供や進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 3 希望する進路先・居住地関係機関との連携を図り、情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。	1 活用しやすいよう、ファイリングしたキャリア教育ノートをクラスごとに配付しました。キャリアパスポートについては、他校での作成方法を調査しています。 2 中学部では、進路説明会に向けて事前にアンケートを実施し、保護者のニーズに沿った情報の提供を行いました。ICTを活用してわかりやすい説明や提示に心がけました。 3 保護者がスムーズに相談支援と関われるようアナウンスするとともに相談支援等との情報共有を行いました。
教育支援部	児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実に努めます。各関係機関との情報の共有化、連携の充実に努め、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。	1 「医教連携セミナー」に代わる「夏のセミナー」を計画、実施し、地域の教育関係者に公開して、医療、教育、地域との連携を深めます。 2 セミナーや研修会の充実に努め、適切な支援につながる教職員の資質の向上を図ります。	1 センター的機能の一環として、夏のセミナーを実施しました。名古屋大学医学部附属病院の医師に協力していただき、「小児がんの基礎知識と学校での配慮」に関する講演を開催しました。小児がんの基礎知識を深めることができ、小児がんの子どもへの支援や配慮に役立つ内容となりました。また、オンライン開催となり、県外を含め、より広い地域からの参加が可能になりました。 2 夏の研修会を実施しました。本校職員に加え、外部講師を依頼し、スクールソーシャルワークの実際、オンラインミーティングツールの活用、人の体と動作の不思議、手話講座等、幅広い分野の研修を実施できました。
教育情報部	GIGAスクール構想によるICTの環境整備を活用し、これまでの実践とICTの融合を図ることで、児童生徒、教師の力を最大限に引き出す取り組みを進めます。	1 児童生徒一人一台タブレット端末を活用できるようにアプリケーションの精選をし、ハード面を整えます。 2 各端末でネットワークを円滑に使用できるように設定します。 3 対面とオンライン、さらにストリーミングを合わせたハイブリット化した協働的な学びを展開します。 4 保護者と教師がICTでつながり、これからの情報社会を生きていく子供たちを見守りながら情報モラル教育の定着をはかります。	1 本校、施設内教育、訪問教育に児童生徒一人一台タブレットを割り振り、基本設定をしました。また、児童生徒の実態や学習に即したアプリケーションのインストールを進めています。 2 クラウド型の協働学習アプリケーション（コラボノート）を使い、授業での活用を進めました。ネットワーク上で複数人編集できる機能を活用し、同時に作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識しながら他者と協働して学習活動に取り組むことができました。また、在宅で学習する児童生徒と、オンラインでの学習や活動も進めることができました。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 3 「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか ・提案・交渉・合意形成型アプローチ、ジェントルティーチングを進められたか 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 5 センター的機能の充実に努めたか 6 仕事の効率化、勤務時間の適正化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか	